

事例番号:290403

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 1 日

7:50 陣痛発来のため入院

4) 分娩経過

妊娠 40 週 1 日

12:00 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 1 日

(2) 出生時体重:2662g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.053、PCO₂ 30.8mmHg、PO₂ 24mmHg、HCO₃⁻ 22.5mmol/L、

BE 不明

(4) Apgarスコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 1 日 心拍数 74-98 回/分の徐脈あり、体温上昇とともに心拍数 130 回/
分台に落ち着く

生後 12 日 退院

生後 6 ヶ月 自発運動少なく、筋トーンがやや低下、頸定不完全、プロットーインファ

ト

生後 8 ヶ月 精神運動発達遅滞と診断

(7) 頭部画像所見:

生後 6 ヶ月 頭部 MRI で異常所見なし

生後 11 ヶ月 頭部 MRI で大脳基底核・視床に明らかな信号異常を認めない

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与したと考えられる事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 分娩経過中の管理(分娩監視装置装着、内診等)は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 生後 5 分、臍帯動脈血 pH 7.053 のため小児科医へ連絡した対応は一般的である。

(2) その後の管理(経皮的動脈血酸素飽和度およびバイタルサインの測定、血液検査、超音波断層法実施等)は一般的である。

(3) 生後 1 日、心拍数 74-98 回/分で徐脈の精査のため A 医療機関 NICU へ新生児搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

アプガースコアは、出生後の児の状態について共通の認識を持つ指標となるため、新生児の状態の評価と採点について、内訳を記録することが望まれる。

【解説】本事例では、生後1分、生後5分ともにアプガースコアの内訳の記載がなかった。アプガースコアの内訳を診療録に記録することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。